

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：2023年 3月 15日

事業所名 地域サポートセンターえがお

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	1	3	室内の狭さを感じつつも、児童の過ごすスペースを確保しつつ安全に過ごせるよう努力している。	活動内容に合わせて別室の利用や、物品の配置の配慮などで安全なスペースを確保できるように対策していきます。
	2	職員の配置数は適切である	2	2	利用状況によって過不足が生じること	医療的ケアに人手を要する時間帯などもあり、状況に応じて他部署との連携を行うことで、安全の確保に努めています。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	1	3	児童の過ごすスペースを一定の場所に固定することで生発パターンの流れがスムーズになる工夫をしている。バリアフリーにおいては、出入口の狭さなど課題多数あり。	エレベーター内が狭いため児童の手足の位置など必ず確認し安全に配慮して使用しています。児童の成長に伴い、今後は活動場所の検討が課題となっており、対応を検討していきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	2	2	人数によっては空間が狭くなり、こどもたちの動きに配慮が必要。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4		シーティングで振り返りや改善点をあげて、結果や課題の共有をしている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4		保護者の思いを再確認しながら業務にあたりニーズに対応できるようにスタッフ間で話し合いをしている。	すぐに対応できること、上層部による対応が必要なことなど、整理しながらすぐに対応できることは部署内で早急に取り組んでいきます。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	2	不明・把握できていない。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	1		
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4			
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4			
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	3	1	全員で話し合う時間が少ない。	朝のミーティング等の時間を有効活用し、必要な話し合いの時間を設けていきます。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4			
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	4			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4			
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	1	必ず行っていない。利用者があることが多く翌日に行くこともある。記録で各自追うようにしている。	支援終了時は送迎スタッフが参加できないこともあるが、翌日などに振り替えて行っています。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4			
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4				

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	3	1	地域の保健師との連携がさらに深まると良いと感じる。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	3	1	通所開始時に介入はあっても、その後は保護者を介して情報共有のみに留まっている。	担当者会議などを必要に応じて設定・参加することで、連携した支援につながるため、発信していく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	4			
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	1	今後、移行支援としての取り組みが必要。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	1	今後、移行支援としての取り組みが必要。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	2		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		4	コロナ禍のため行えていない。	保護者より必要性の声は上がっており、今後はそのような機会を設けていけるような取り組みを検討していきます。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	1	積極的ではない。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4			
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	2	必要に応じて対応し行っていく。	ペアレントトレーニングに関しスタッフ自身の学びも深めながら、今後の支援に取り入れていきます。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	3	医ケアカフェを以前は行っていたが、最近では行えていない。コロナ禍にて行えていない。	感染対策をとりながら、保護者会などできることを検討していきます。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4			
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	4			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		4	感染予防もあり行えていない。	感染対策をとりながらできることを検討していきます。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	2	2	保護者には周知されていない。保護者へのマニュアル周知はできていない。スタッフ間ではできている。	緊急対応マニュアルは個別で保護者と共有していません。感染対応に関しては状況に応じて個別対応しながらマニュアルの周知に努めています。

非常時等の対応	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4			
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4			